

気 象 庁
令和 7 年 7 月 28 日

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ第 10 回会合 議事概要

1. 開催日時

令和 7 年 6 月 20 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分

2. 開催場所

気象庁 13 階会議室 7（ウェブ会議併用）

3. 出席者

別紙のとおり

4. 議題及び検討結果の概要

下記の議題について検討を行った。

○議題 1：線状降水帯の予測精度向上に向けた取組の進捗状況について（報告）

- 半日前の予測情報はまだ新しい情報のため、情報発表する際にはこの情報の意味と情報を受け取った際に具体的にどのように行動すればいいかという点を一緒に伝えていくべき。自ら大雨や危険度の実際の情報を確認してもらうため、気象レーダーの画像やキキクルにもアクセスしてもらえるような呼びかけの取組を進めてもらえると良い。
- 観測の強化について、水蒸気の鉛直積算量のみならず鉛直方向の分布も大切なので、水蒸気量や相対湿度の鉛直分布にも着目してデータの分析を進めていただきたい。機動観測の船の配置をする際、情報として高感度なところも検討いただきたい。
- 線状降水帯を検出する 4 条件（顕著な大雨に関する気象情報の発表基準）のうち、特に 4 つ目の危険度に関する条件が非常に分かりにくい。内容はいいが、文章をもう少し改善して、一般の人がわかりやすい文章にするべき。

○議題 2：線状降水帯の予測精度向上に向けた学官連携の方策について

- 緊急研究は長期的な視野を持って進めていただきたい。知見の集約や今後の研究の方向性の検討にも貢献するため、キーワードを付けて最新の研究成果や論文情報を整理し共有することについて検討いただきたい。
- 線状降水帯データベース装置において提供されているメソアンサンブル気圧面データについて、ジオポテンシャル高度及び 975hPa・925hPa 面の水蒸気の偏差を追加いただきたい。線状降水帯 6 条件など高度情報を要する計算やアンサンブル摂動の評価

等に利用したいと考えている。実際に線状降水帯が起きる・起きない場合に意見交換をする場として、数値予報資料共有 Web が利用できるようなると良い。

- 気象が社会や経済に与える影響を予測するインパクトスタディは学官連携ができると考えられる。世界的にも実施されているように経済被害等の観点も検討に加えるべき。観測のみならず機構解明のメカニズム研究についても、学官連携で取り組む体制を考えていただきたい。機構解明研究会などの場を通して継続的に緊急研究の情報を共有いただくことで、共同研究の種を見いだせると期待している。機構解明研究会は昨年度に引き続きハイブリッドで開催していただきたい。

○議題 1、議題 2 共通

- 分類表について、モデルでどのように線状降水帯の予測が空振りになってしまったのか、適中したとしても本当に正しい理由で適中しているのかといったことも検討するとよい。線状降水帯発生 の 6 条件に照らし、環境場の表現自体がどのようなになっていたかという観点でも整理するとよい。寒冷渦との関係も分類表に入れてもらいたい。今年度も発生した線状降水帯について分類表への当てはめを行うようにし、なるべく長期にわたって線状降水帯の分類表の整理を続けて公開してもらいたい。

以上

線状降水帯予測精度向上ワーキンググループ第10回会合 出席者

有識者

	かわむら 川村	りゅういち 隆一	九州大学理学院地球惑星科学部門 教授
○	さとう 佐藤	まさき 正樹	東京大学大気海洋研究所海洋地球システム研究系 教授
	しみず 清水	しんご 慎吾	防災科学技術研究所 主任研究員
	しゅっせ 出世	ゆかり	防災科学技術研究所 主任研究員
	つばき 坪木	かずひさ 和久	名古屋大学宇宙地球環境研究所 教授
	よしむら 芳村	けい 圭	東京大学生産技術研究所 教授

(○：主査、敬称略、五十音順)

気象庁

	さとう 佐藤	よしあき 芳昭	総務部参事官（技術）
	かずもり 計盛	まさひろ 正博	情報基盤部数値予報課長
	べっしょ 別所	こうたろう 康太郎	情報基盤部気象衛星課長
	たちばら 立原	しゅういち 秀一	大気海洋部予報課長
	ふじた 藤田	ただし 匡	気象研究所研究連携戦略官